

12/19 記者会見

1. 内容（資料説明）

① 令和6年度まちづくり市民アンケート結果概要速報

今年9月、2年に1度の「まちづくり市民アンケート」を実施。このたび集計が終了したため、結果の速報をお知らせする。添付資料は1枚説明の資料、結果の概要、アンケート自体そのもの。対象者は1,000人、回答数450人。

アンケート項目について、毎年同じように質問している全般の内容を定例的に、また過去からの経年項目がある。それから子育て関係、2年前の令和4年も同様の質問をしている。次が移住定住、今回初めて質問した。最後が公共施設のあり方、これも初めて質問に入れた。概ね5項目に区切っている。本当はいろいろ質問したいところだが、市民の負担軽減の観点から抜粋し聞きたい項目を絞っている。定例的に行なっている項目については継続している状況。

結果の概要について、まず全般のところ、毎年聞いている見附市は住みよい町か、に関して4択の上位2択という結果。住み良い、どちらかといえば住み良いという回答が91.8%、前回よりも0.6P伸びで過去最高の数値となった。それから10年前と比べて魅力あるまちになってきたと思うか、についても近年最高の数値となっている。2番目の子育てしやすいまちか、ということについても、2年前よりも子育てしやすいとか、どちらかということ子育てしやすいが、合計で76.9%と増加している。具体的な項目についての満足度の高い項目トップスリーが、「保育園・認定こども園・子育て支援センター」、「経済的支援」、「子育てに関する相談体制」という結果であった。前回よりも伸びた項目、特に伸びた項目という観点では、「子供の遊び場」、「子供の移動のしやすさ」、「子供のための地域のイベント・行事」というところが大きい。「子供の遊び場」については「プレイラボ」「MITSUKERU」ができたことも影響したと思っている。「移動のしやすさ」についてはコミュニティバスの移動の無償化があるかもしれない。「地域のイベント行事」では、特に地域コミュニティに、敬老会への専用のお金を自由な形で使ってほしいと世代交流等も推進してきたが、そういう結果もあった推測している。

移住定住についても、他の自治体に比べて見附市が優れていると思うことは何か、という質問について特段目立った回答はなく比較的分散する結果ではあった。「利便性」や「自然が近い」、「県内のアクセスの良さ」というのがトップスリーであった。基本的には市外に住んでいたことがある人も、順番は変わっているものの同様の結果であった。

今回初めて聞いた、「公共施設のあり方」への問いは特徴的だったと思っている。4択で半分ぐらいの方から縮小しながらニーズにも応えてほしい、という回答が得られた。

今後充実、拡充すべき施設ということで、いろいろ選択肢がある中でのトップスリーとしては「医療福祉系」、「子育て」や「スポーツ」が高い結果を得た。

アンケートを同じ人に聞いてるわけではないので単純比較はできないが、概ねこんな結果。自

由意見の欄もあるので詳細は改めて報告したいし、このアンケートについては、来年度見直しをする総合計画策定の参考にしながら、しっかりと職員一丸で作っていかうと思っている。

② 「ナイトコミタク 2」見附の夜の足として運行中

現在夜間の交通手段の確保の一手として、夜間オンデマンド乗合タクシー「ナイトコミタク 2」の実証運行を実施している。実証運行開始から 2 カ月半が経過し途中状況をお伝えし、ぜひ取り上げていただきたい。2 カ月半が経過し利用者が伸びてきている状況である。

利用者数について、10 月、11 月、12 月と 1 人当たりの利用者数が徐々に伸びてきている。市内の企業や飲食店への働きかけの効果もあり、また忘年会シーズンだったことも大きいと感じている。全く違う形ではあるものの、昨年行った実証運行は 1 日あたり 2.8 人。10 月は逆にそれよりも落ちたけれども、12 月についてはそれ以上に伸びている状況。

乗車地について、相変わらず見附駅が多く 74.4%、4 分の 3 は見附駅乗車。ただ、去年は 8 割から 9 割が見附駅乗車だったが、比較的今町、見附の商店街からの利用が伸びつつある。今後この割合を伸ばしていければと思う。もちろん見附駅からの乗車についても、市民の足の確保から非常に重要であり、今後両方とも伸ばしていきたい。

利用時間についても記載の通りで、最終便の利用率が高く、インターネット利用がどちらかという和高いという結果であった。

2 月中旬まで実施予定。我々としても全力で周知していきたいし、ぜひ皆さんからも発信していただきたい。

③ 令和 7 年度成人式協賛企業を募集します

すでに一部の新聞から取り上げていただいているが、5 月に予定している令和 7 年の成人式では、地域全体で式を盛り上げていくことを目的に新たな試みとして、新成人の門出のお祝いに協賛いただける市内企業を募集する。

実は去年も「キャノントッキ」さんからの申し出もあり、写真を使ったブースを出していただき非常に好評であったこともあり、今回は広く企業に呼びかけた。企業にとっては商品や会社の PR、また参加者の多くは学生ということもあり、就職などの人材確保面からも効果的で、協力を得られるのではないかと思います、すでに募集を開始した。

協賛形態は 3 種類。去年の「キャノントッキ」さんのような形のブース出展形式、当日成人式抽選会での景品提供、なかなか商品がなく景品を出しづらいような企業も協力いただける協賛金の提供。

成人式については、例年 5 月 3 日に行っている。詳細については決まり次第お知らせする。

2. 質疑応答

質：読売新聞

・成人式の協賛企業募集にについて、新たな取り組みとして、と言われたが昨年すでに「キャノ

ントッキ」さんが出展されているのではないか。

答：市長

- ・特にこちらから募集をするのは初めてという意。成人式では「キャノントッキ」さんからの申し出によりブースを出展いただいた。せっかくなので1社だけでなく、今度は広く募集したらどうかということで、そういう取り組みを今回初めて行った。

質：読売新聞

- ・企業側は協賛金を出すという以外に関しては、特に何の損が無く、得しかないように思う。お金をもらってもいいのではないか。

答：市長

- ・考え方としてはあるかもしれないが、成人式を盛り上げるという意味では出店していただけるだけでも非常にありがたい話。特にお金を取らなくても、こういう形で募集するのは形としてはあるのかなと思う。他市での事例もある。

質：読売新聞

- ・他市での事例というのはどの辺りだろうか、県内でもあるのか。

答：まちづくり課長

- ・県内の事例は把握していない。北海道富良野市、三田市…。

答：市長

- ・正確に確認したわけではないが、県内の事例は無いと思う。他市の事例があったことだけは確認している。

質：読売新聞

- ・出展ブースは最大何ヶ所ぐらい設置できるのか。

答：まちづくり課長

- ・特段何ブースまでとかは想定していない。集まった企業数で、各企業が希望する出展の広さ等も含めて調整したい。

質：読売新聞

- ・協賛品というのは抽選会、これは他市でも結構やっている記憶がある。
協賛金というのは、ただお金を払う…。

答：市長

- ・その通り。その代わり広告とか、いろいろなところに名前を付けることによってPRはできるかと思う。企業が協賛金を出していることを記載するとか。

質：読売新聞

- ・それは例えば当日成人式に出席した人に配る配布紙みたいなものの中に、ガイドラインのようなものを入れるとか。

答：市長

- ・そうですね、何らかの形でしっかりお示しをしたいと思う。

質：読売新聞

- ・そうすると明らかに珍しいかもしれないのは、出展を募集することだろうか。

答：市長

- ・そのとおり。他がどれだけやってるかわからないが、これを大々的に募集したというところは珍しいと思う。

質：読売新聞

- ・念のための確認だが「去年」と言われたが、これは今年の5月。「キャノントッキ」は今年と思うが。

答：市長

- ・今年の5月の誤りだ。

質：読売新聞

- ・来年の成人式の対象者は約380人。具体的な中身については、これから自主的に新成人が決めていくのか。

答：市長

- ・毎年、代表者何人かが実行委員になっている。その方々を中心にこれから検討していく。

質：読売新聞

- ・それは年明けだろうか。

答：市長

- ・まだこれから。この部分だけ少し早めに先行したという状況である。

質：見附新聞

- ・アンケートについて、新たな項目を加えた「移住定住」は、市長が力を入れたいところだろうし、「公共施設の今後のあり方」というのは、来年度から導入予定のCSOの最重要最優先課題にも繋がるという理解でよろしいか。

答：市長

- ・特に力を入れたいのは子育て、移住定住、市政の関係。公共施設については、CSOとの関係というよりは、今後見直しが必要な中でCSOを採用し特に力を入れて行うつもりでいる。私としても力を入れる必要のある項目であり今回取り上げた。
- ・回答率が45%ということだが、前はどの程度だったのか。

答：企画調整課 秘書広報室長

- ・詳細の数字は把握していないが、今回の45.0%よりも若干低かったという認識。微増と記憶している。

質：新潟日報

- ・アンケートについて、公共施設に関して「縮小する一方でニーズに合わせて拡充」という回答が一番多かったということだが、今後検討していく上でニーズの部分は今回拡充すべき施設としてアンケートを取られているが、縮小の部分、どこを優先的に縮小するかを決めるのが難しいと思うが、そこに関してのアンケートとか、どのように意見収集していく予定か。

答：市長

- ・選択肢をどのように整理するかすごく悩んで決めた。その中で縮小も止む無しという答えが出たことは、このアンケートとしての一つの成果なのかなと。

何を縮小するかは、この別紙資料の中では未整理だが、アンケート自体の7ページ内問18番で触れており、これがヒントとなるような結果が得られると思っている。これを踏まえながら、

まさに公共施設の検討、それから総合政策等々の検討にあたっていく。

質：新潟日報

- ・ナイトコミタクについて、昨年度の実証実験から人数が増えたということだが、どの程度の利用を見込んでいて、その現状は好調なのか不足なのか、もっと増やしたいという考えなのか。

答：市長

- ・特に具体的に何人という目標は立てていないが、少しでも多くの方に乗ってほしいと思っている。そういう意味では10月や11月はまだ低調だったと、はっきり言うと私も思っている。12月になりやっと見込みに近い数字になってきている。さらにこれから忘新年会のシーズンになるのももう少し伸ばしたいという思いがある。

答：都市環境課長

- ・具体的な数値目標などは設定していないが、前は12月15日から1月20日の間で忘新年会シーズンのど真ん中であつた。今回も同じ期間で比べてみてどうかと。個人的な意見だが、前は1日1往復で今回は1日3便、単純に3倍位はどうなのかなと。今後そういうところも含めて分析の必要がある。

質：読売新聞

- ・ナイトコミタクについて、去年からの2度目の実証試験、来年はどのように考えているのか。

答：市長

- ・まだ検討中。そろそろ見えてくる部分もあるのでデータを見ながら今後検討していくが、何らかの足の確保は考えていきたい。まだまだ課題もあるのでそこも踏まえて同じように継続するのか、別の手段を考えるのかしっかり考えたい。

質：見附新聞

- ・ ナイトコミタクの組み立てのことで、夜出ていると感じるのは、お店側もコミタクの利用の声かけをしたいが、そうすると電話してという話になりかねない。お店としては、基本的にはそういう手間をかけたくないと思っている。客とコミタクとの仲介の調整も生じるし、それを断りづらい雰囲気もある。ネットで申し込めるし市民への周知というところが大きなポイントのような気がするが、市長の見解はいかがか。

答：市長

- ・ おっしゃる通り。市民への周知と飲食店の方のご理解、これが本当に大事になってくる。これまでも行っているがさらに行う必要がある。問題意識は同じだと思っている。知っているけど使ってもらえないのはシステムそもそもの見直しが必要かと思うが、知らなかったなどそういうことにならないようにするにはどうしたらいいかということ、徹底的に急いで考えて、早く実践したい。

質：新潟日報

- ・ 先日、来年度の市長選の告示日なども決まったが、稲田市長は2期目も含めてどのようにお考えか。

答：市長

- ・市長選の日程は決まったという状況。来年の11月30日ということは私自身も承知している。私自身も「4年」という単語を捉えてこれまで行政を行ってきたわけではなく、その先も見据え

て一つ一つの課題を解決していければいいという思いでやってきた。4 年の任期に関わらず、中長期的な視野を持った行政をしっかりと行うことを進めていきたい。

具体的なことについては、しっかり考えて、しかるべきところで話ができればと思っている。

質：新潟日報

- ・しっかりと考えているということだが、いつ頃を目途に自身の考えを表明する予定か。

答：市長

- ・そこは聞きたいところかとは思いますが、今はコメントを差し控えたい。

質：新潟日報

- ・改めて 1 期目の稲田市長の成果とその課題を聞かせてほしい。

答：市長

- ・1 期目で 3 年経過したが、進め方としてはしっかりと市民の皆さんの声を聞くというところ。自身の柱に市民に寄りそうという柱と様々な力、あらゆる力を結集するという柱立てがあるが、そういうところは意識してきた。市民の力を借りるというのは、ふれあい懇談会や職員の行動に注力したいという意味での組織作り。職員提案、職員間検討ワーキングの立ち上げにも力を入れた。政策面では大きな意味での子育て施策。それらを進める上での企業力という意味ではジョブチャレンジ教育。子育て先進企業の協力を得ながらやってきた。地域コミュニティとの関係、いかに活性化させるか地域の役割も大事なところ。市民団体の活躍の場ということで旧医療施設の拠点も着手したところだが、本当にあらゆる力を結集してやってきた。

そういう意味では、プラスアルファの見直しとして「外部人材」についても、いろいろな人たちから研修し市政運営をしていくといったところは、私自身注力してきた。また、子育ての部分も含めて、着実に一つ一つ課題解決してきたと思っている。これからも一つ一つやっていきたいし、まだまだ課題が残っていると認識しているので解決すべく、少し時間がかかっているものもあると思うが、焦りすぎず、かといってしっかりと結論を出して次に進めていきたいと思っているし、進めてきたというふうに思っている。

質：新潟日報

- ・外部人材について、市民の方から CSO の役割というのが見えにくいという意見がある。各課との連携、全体を俯瞰するといってもどこまでなのか、どこまで業務を担うのかなど、特に市役所内での各課との連携について詳しく知りたい。

答：市長

- ・具体的にはまだこれからの部分であり整理も必要。職員にも市民の皆様にも、今後しっかり説明の必要があると思っている。ただ、今現段階で言えることは市役所の業務全部をみるとは考えてはおらず、まずテーマを決めて、例えば 1 番の優先順位は「公共施設のあり方」。いかに見直していくか、そこは本当に関わっていただこうと考えている。公共施設についてはそれぞれ関係所管課があり、例えば文化スポーツ施設は「まちづくり課」、その課と連携しながら取り組んでいくことになろうかと思う。まずは全体の方針の議論の中で相談しながら、あるいは各課の意見を聞きながら決めていく。全課とも繋がる部分もあるが、全ての業務、例えば福祉の仕事の全業務を担うことまでは考えていない。そんな中で各課と連携をとりながら業務を進

めていただく。それなりの立場でもあるので、私どもと協議しながら方向性をまとめていく役割を担っていただこうかと思っている。実際に登用するまでに市民の皆様にももっとわかりやすいように説明できればと思っている。

質：見附新聞

・今の関連で、CSOの担う業務というのは、「全体」よりも「幅広く」という表現だろうか。

答：市長

・全部ではないけれども、全課にまたがるような業務を担っていただくという意味ではその通りかもしれない。ある程度しっかりと分野を決め、公共施設のあり方ならば担っていただく。他に今示してるのは事業の見直しという部分がある。これからまた限定しながらやっていただくが、少なくとも公共施設はできるだけ幅広くみていただこうと思っている。

質：見附新聞

・市職員あるいは議会に対してどういう仕組みでどうやっていくのかということは、これからまだまだ説明が必要と感じている。ある議員からの投書で「加茂市がやってることをご存知なのか」と言われた。事例としては加茂市の戦略監が、次期参議院選挙の自民党県連の候補者に手上げをしたため、任期3年間ではなく実質1年3、4ヶ月ぐらいで戦略監を終えたわけだが、そういう状況はどれだけのよう把握されているのか。

答：市長

・似たような事例で、位置づけは違うが三条市もあるかと思っている。加茂市は比較的に見附市と近いやり方。首長、担当者同士も含めてかなり熱心に勉強し、メリットデメリットも含めてどんな状況か意見交換を行い、その上で募集するという判断をした。そういう意味では、全く同じではないが実施状況について参考にしたことは事実。残念ながら、途中で参議院選挙の絡みで退任されたが、藤田市長に言わせれば、本当に残念でずっとやってもらいたかった、止む無くあのような形での退任となったということをお聞きしている。また、非常に機能している状況も聞いているので参考にさせてもらった。

質：見附新聞

・市長は「ビズリーチ」でのインタビューでも、今回の議会の中でも「チャレンジして失敗することを恐れるよりも何もしないことを恐れる、という言葉に胸に」と言われているが、この3年間を振り返り、特にチャレンジということについて、市長の意識として具体的に行ったことをお示しいただきたい。

答：市長

・まだまだこれからの部分もあるかと思うが、それなりに少しずつチャレンジしたと思っている。一つは小中学校の見直しの件、タウンミーティングをやり検討委員会に着手した。これまでずっと見附市がやっていなかったことで、非常にハレーションも大きくなるだろうと想定したが、もうやらなきゃならないだろうと始めたというのは一つあるかと思っている。

それから地域コミュニティ絡みでは、これも非常にハレーションが大きいと想像されながら、敬老会のあり方について手をつけたり、これまで一生懸命力を入れていた健康ポイントのあり方についても、少し見直しを行った。

どちらかといえば見直しの部分等が多いが、財政状況を見ながらで難しいところもあるが、

いろいろな課題が残されてる部分もあるので、しっかり解決しながらチャレンジできることはやっていきたい。あとは大きなチャレンジかはわからないが、移住定住についてはいろいろな政策を始めたというところも、今まで動きはなかったところだと思っている。

質：見附新聞

- ・市長就任以来、職員に対してボトムアップということをずっと強く求められていて、その姿勢は変わらないと思っている。まず市内の横断的なワーキングチームの話が出たが、今実際そうしたワーキングチームの数がどのくらいあって、どういう取り組み状況なのか。
- ・ボトムアップの成果としては電動キックボードの購入ぐらいと記憶しているが、市長の中で成果としてこれだと言えるものがあればお示しいただきたい。

答：市長

- ・1点目は市内の横断的ワーキングチーム。現在少し形上は薄らいでいるものの連携する形で行っている。例えば「子育てしやすい職場作りのあり方」を連携するなど、子供の関係では多かったと思う。そして「足の確保」、それは2種類あって公共交通系、市が持つバス交通機関のあり方、今も連携しながら議論する体制を作っている。そういったものも含めて、企画調整課が軸となり様々な連携体制で議論するようにしている。

ボトムアップの提案について少し勘違いされているようだが、キックボードの提案は、あくまで職員提案として挙げてもらい出したものはあれしかないということ。ほとんどの政策はボトムアップで築き上げて出てきている。私自身いろいろな職員との会議の場等で課題を投げかけている。いろいろな企業とのヒアリング、あるいは別な形で課題をあげていただく。そういう形の結集が各年度の予算であり、プラス施政方針でもあると思っているので、施策の殆どがボトムアップで作りに上げてきていると認識している。

質：見附新聞

- ・そうしたときに、例えばいろいろ課題が見え、その課題に対して市長の明確な方針を示した上で具体策を挙げよというやり方なのか、ボトムアップの求め方をお尋ねしたい。

答：市長

- ・案件によっても違うので一概には言えないが、方針を示すものもあれば、課題感だけ伝えて本当にやるべきか否かも含めて検討してほしいと言うものもある。そういったものを各課の進捗確認、状況把握をしながら報告を求め、予算要求や方針に反映する形をとっている。

質：見附新聞

- ・自殺対応等は以前から必然で関係各課で行ってきた。そういう姿は見えてきているので、どうしても一つの課だけでは対応できない、処理できないという案件はいくつもある。これまで以上に進めていってほしい。
- ・12月議会の補正予算説明を聞いた中で、職員の年度途中の退職が5人程あるような話だった。退職者増により一般会計補正後の積算人数が12人、プラス7という数字が示されている。漏れ聞くとところでは若い年代層も含まれているというのが現状をどう捉えているか。

答：市長

- ・確かに途中で辞められる方が増えているのは事実だと思うし、それはできるだけ避けたい部分もある。実は他市町村も似たような状況があり、今は比較的転職、異動が激しいという

ことはどこの市町村も一緒のようだ。ただし、それを良しとするのではなく、できるだけ回避していきたい。若い人たちのニーズの感覚がそうになってきていることを何となく感じているし、一步ステップアップしたら次のところに向かうというのは、結構普通になってきている。一方で、外から入ってくる人達、希望する人達も増えている。そういう状況ではあるが、やはり一度はここで育てられ、育てていった方、できるだけ長く居てもらいたいという気持ちはある。人材育成のあり方も含めて組織のあり方や職員のモチベーションのことは、今少し手をつけているものの、まだまだ足りないと認識している。今後もっと力を入れていく必要がある。

質：見附新聞

- ・3月か4月に同じような質問をしていて、そのときも確かにそういう状況があるという答えをいただいたと思うが、今年度もいろいろ見ていく中でそういう状況が伺えたのでここで改めてお尋ねした。
- ・今回の救急消防車の件については議決を得ずにということがあり、議会最終日冒頭に市長からお詫び言葉があった。今年度に入り保育料の過誤徴収の問題、ケアプラザでの利用者からの預かり金の紛失。こうした案件が三つも重なるというのは、業務上の緩みという職員の方に反感を買うかもしれないが、そんな感じが無きにしもあらずとを感じる。特に市長から職員に対して襟を正すというか、指示を出したことはあるのか。

答：市長

- ・そういういろいろな案件を、まず公表しようという思いがある。過誤徴収、議決を得なかった件は除き、市立病院の案件も含めて少し些細な事でもしっかりと表に出そうというスタンスでいるので、そのぶん数も増えてるかもしれない。一方でこういうミスをできるだけ無くす必要があるのも事実。職員に対しては、これまでもこれからも言っていくし引き締めていくが、職員も一生懸命頑張ってることも事実である。その中でチェック体制、確認の在り方、そこはまだまだ課題があると見ている。ミスした人の問題ではなく、その体制のあり方、そのときの確認の仕方、これをしっかりと見極めながら目を配らせ対応したい。

質：見附新聞

- ・この三つの案件は個人のミスというよりも、今市長が指摘されたことだと思う。今後このようなことがないようにという思いで質問させていただいた。
- ・3月議会の継続になるが財政について、市長選に出馬されたときからすぐに危機的な状況というわけではないが決して将来的には楽観視できない、前回もこのようなことで変わらぬとお聞きした。

中長期の財政計画を見たときに令和12年度に財調がなくなるという部分だけが独り歩きしている感じがあり、中身をもっと細かく見る必要があると思う。今回の12月議会のウエルネスタウンの問題についても、年間8,750万円の収入がある想定で組まれているということは、実質はもっときちんと改善できないと厳しい状況にあるのは浮き彫り。また駅の件もまだどれだけかかるか見えない。それから耳取り遺跡の問題をどうするか。

- ・今後はCSOによる財政の見直しのようなこともあるが、改めて財政に対する現在と今後

について見解を聞きたい。

答：市長

- ・財政について、令和 12 年度までに無くなってしまうことが、だいぶ独り歩きしている部分がある。推計の仕方で大きく動くし、トレンドなどの関係もある。もう少し改めて精査したいと思っているが、いずれにしても楽観視できないということはずっと変わらない見解だ。

そんな中で事業のあり方、まだ支出に積んでない部分もある。そのことも踏まえて、少々時間もかかっている部分も承知しているが、急ぎすぎてもいけないと思っている。しっかりと丁寧に検討し手を打つということで、これから事業の見直しも行い、そして公共施設全体を見直していきたい。一つ一つ全体をバーンという形でやるという計画を立てておらず申し訳ないと思っているが、一つの結論を出し、できたものから発表し、それを中長期財政計画に反映し、少しでも市民に安心してもらえるような見せ方ができるか、これから工夫していきたい。

質：見附新聞

- ・改めて聞くが、直近でいうと一つはやはり駅の問題をどうするかということが大きなポイント。調査中というのはわかるが、市民サイドから見ると何故こんなに時間がかかるのかという声も出ている。理由は答弁などでも出ているので理解できるが、例えば来年度予算に盛り込めるなどということは、現状ではまだ厳しいのか。

答：市長

- ・できるだけ早く動かしたい部分もあるが、答弁でも回答したとおり、データ、資料も含めて相手がいる話で少々時間かかっている部分があるので、現段階では何とも言いがたい。

質：見附新聞

- ・県の教育委員会から聞いたところ「県立高校の将来構想の地域別説明会」が開催され、現在の素案については県議会と県内 30 市町村の市長、教育長を訪問し、いろいろお話を伺ったということがあったようだ。見附高校の場合には、来年の 4 月の募集が当初 3 学級で予定されていたが 2 学級に減らされたということで、市長も県に対していろいろな動きをされたということも聞いている。現在の県立高校の将来構想には、見附高校については具体的な記載はないが、この説明を受けられた感想、あるいは県に対して話した内容があればお聞かせいただきたい。

答：市長

- ・見附高校につきましては、この見附にとっても唯一の公立高校で、外から来て見附で学び関係人口を増やすという観点からも、非常に大事な高校だと思っている。そういう観点で知事や県教育委員会へも申し上げた。倍率がいつも低く志願者が少ないという部分があり、今のままで学級数を残してくれと言っても難しい部分があると認識している。もっと魅力的な、特色のある高校にすべきではないか。それをぜひ県で考えていただきたいし、市も積極的に協力していきたい。

特に見附については非常に地の利があると思っている。外にも出やすいが逆に中に入っても来やすい。新潟県のど真ん中で、県全体からも子供たちが来てもらえる可能性がある。駅にも非常に近い。近さで言えばかなりメリットは大きい部類と思っている。そういった地理

的特性も生かしながら魅力ある高校にしていけないか、そういう協力していきたいと知事や県教育委員会に伝えているところだ。

質：見附新聞

- ・今、駅の交流施設の中でも見附高校の生徒の存在は大きなものがあるし、創進学園もこの春からデザインアート全部を本所に持っていった。市外で一番遠い子は胎内市から3年間、その前の年は十日町から通ったという子がいる。そうした視点はまち作りの中でも大事なポイントになると思うし、県の将来構想の説明の中でも地元の企業との連携など、もっともっと町全体で見附高校との連携を考えていく必要があると思うが、市としてこれから何かを仕掛けたいという考えはあるのか。

答：市長

- ・まずは、見附高校の大切さなどについて市民に知ってもらいたいし、いろいろなパターンを拾っていくところからかと思う。私もあまりしっかりと声を拾わないうちに、直接知事に一番に申し上げてはいるが、もっと輪を広げていく必要がある。そういう意味でいろいろな声を聞く場は持ちたいし、県に本気になってもらう必要がある。小手先のものではなく根本的な魅力化をしないという意味がないと思っている。県がまず主体で動き、市が如何に協力できるかという方向を探っている。そのための市の盛り上がりとして何をしていったらいいかと考えている。

3. その他

答：企画調整課 秘書広報室長

- ・先ほど回答した、アンケートの回答率について、前回比較で「微増」と答えたが、私の完全な勘違い。前回（令和4年度）は49.8%、前回比較で「4.8%の減」となる。お詫びと訂正をしたい。